

青葉学園支援連携

ファミリーホーム



くらちゃんハウス開設



「施設養護」から「家庭的養護」「家庭養護」へ、という国の新しい社会的養護のあり方を受け、中日青葉学園おば館は、今年十月、「家庭の養護」の第一弾として、一つの女子ホーム(十六人)を二分割、小規模グループケア(八人・二グループ)を始めます。さらに施設は「子ども六人を一軒の家で育てるファミリーホーム」への支援、連携をすることも求められており、今年三月までおば館に勤めた倉橋幸彦・前指導係長が四月、東海市に開設したファミリーホーム「くらちゃんハウス」を支援するとともに連携をしていきます。

青葉通信

第14号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園

中日青葉学園 理念

「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。



ファミリーホームは小規模住居型児童養育事業として位置づけられ、形態は児童養護施設が運営する「地域小規模児童養護施設」と同じだが、施設ではなく個人が運営することで、里親とともに「家庭養護」とされています。

倉橋さんは、福祉を学び平成十二年、青葉学園に入ってから、児童指導員、主任、係長と十三年にわたり指導現場で中心的役割を果たしてきました。学園で働く中で「施設養護の良さもあるが、子どもたちを少ない人数で、家庭のように育てたい」との気持ちが強くなり、ファミリーホームの制度を知りました。

「自分は家庭養護にあたり、家庭養護と施設養護それぞれの良さをお互いに活用できる社会的養護の実践を青葉学園としたい」と思い、三年ほど前から準備を進めていました。同じ職場で同じ志を持つ安藤(旧姓)美菜子さんと結婚、東海市で家を購入し、「くらちゃんハウス」をオープンしました。

「くらちゃんハウス」は同市富木島町、住宅街の一角、三階建て、5LDKを7LDKに改造、一部屋を四部屋、二人居室を一部屋で子ども六人と暮らします。浴室、シャワールームを各一カ所、トイレ、洗面所を各二カ所、二階にも子どもたちが集まれるリビングを配置しました。

倉橋さん作の利用案内に「くらちゃんハウスとは、倉橋夫婦のおうちで、倉橋夫婦と一緒に住みながら、みなさんの今の生活、明るい未来を考えていく、そんな場所です。ある子にとっては、自立のための勉強の場であったり、ある子にとっては二番目のおうちだったり、ある子にとっては、おうちの代わりです」とその趣旨をうたい、自己紹介、家の様子、生活ルール、周辺情報、Q & Aを



巣立ちの会

卒園を祝う「巣立ちの会」が三月二十日、開かれました。ここの対象者は、高校を卒業し美容専門学校へ進学するおば館女子一人、養護学校を卒業、就職するわかば館男子一人、家庭復帰するおば館男子高校生と小学生の兄弟二人、女子一人、中学を卒業、家から高校へ進学するわかば館女子二人、家庭復帰する小学生男子三人。十人のうち中学生以上の五人が一人一人学園生活の思い出を発表しました。就職する男子は、ソフ



トボールをしたことなど楽しかった話をし、専門学校に進む女子は担当の男性職員について「嫌いだけど好き」と親子と同じような感情を表しながら「これからは先生が自分にしてあげたことを人にしてあげたい」と言葉に詰まりながら話しました。会場は日本フラーデザイナー協会愛知県支部の協力で花がいっぱい飾られ、関係者はコサージュを胸につけて会に臨みました。会の前日、子どもたちがフラーアレンジ作りに協力しました。

まとめました。

四月開設とともに、まず男子中学生一人が入居。今後、児童相談センターと話し合いながら子どもを受け入れていきます。

倉橋夫妻は「これまでの職場はローテーションで仕事が終わっていたが、家が職場になり、新鮮です。子どもたちのためにさらに勉強したい」と新しい仕事に張り

全社協・全国児童養護施設協議会

倫理綱領

- 1 私たちは、子どもの利益を最優先した養育をおこないます
- 2 私たちは、子どもの理解と受容、信頼関係を大切にします
- 3 私たちは、子どもの自己決定と主体性の尊重につとめます
- 4 私たちは、子どもと家族との関係を大切に支援をおこないます
- 5 私たちは、子どものプライバシーの尊重と秘密を保持します
- 6 私たちは、子どもへの差別・虐待を許さず、権利侵害の防止につとめます
- 7 私たちは、最良の養育実践を行うために専門性の向上をはかります
- 8 私たちは、関係機関や地域と連携し、子どもを育みます
- 9 私たちは、地域福祉への積極的な参加と協働につとめます
- 10 私たちは、常に施設環境および運営の改善向上につとめます

2010年5月17日 制定

切っています。中日新聞社会事業団は、支援の一つとして改装費を助成、青葉学園も行事交流などを通じて連携を深めていきます。

